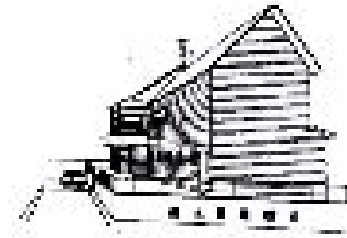


## <今朝の聖書から>

今朝の聖書箇所、マタイ 6:22~34 を開きましょう。最初の22~23節で“目 of qalmoj”は、人の灯りであると語られます。多くの英文訳では、これがランプであると訳されています。イエス様は多くの盲人を癒されたことから、肉体の目を示していないことは明らかでしょう。彼らの目は、主からは澄んでいることが分かっていたといえます。23節で“もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう”という言葉でこのことが解説されています。ほほ笑むことができない時、苦笑いしかできない時、どんな化粧をしてみても暗さのみを周りに放っていることは私たちの知っている通りです。次の24節で、神は富でなく、富は神でないことが語られます。24節では、“命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか”とも語られます。そうなのです。神が与えてくださったもの“命とからだ”のことはさておいて、“食物と着物の豪華さ”を求める生き方があるというのです。そしてその生き方は、私たちの現実の毎日にも、誘惑としてやってくるのです。命を大切にするための食物、健康を保つための着物は、ついて与えられるのです。このことは31節で繰り返し語られています。私たちは“日毎の糧を今日も与えてください”と主から教えられたように、日々祈ります。なにか食べるものがないでしょうかとしか思えないような貧しさの中でも、“健康のためには何を食えないようにしようか”と考えるような放縦の中でも、この祈りがあることに感謝をしましょう。30節で“神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあるろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ”と結論が語られます。不健康で華やかな衣装で、身体を害したり、豪華な食物のために、病を得たりしてはいけないというのです。このような有様を“富に仕える姿・信仰の薄い者たちの姿”と語られるのです。私たちに平安をもたらす主の言葉“あなたにふさわしいもの”が語られます。“異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである(32節)”とあるとおりです。更に“まず神の国と神の義とを求めなさい(33節)”という御言葉に私たちは励まされます。“当面”を乗り切って大きな問題をなおざりにするのではなく、今日と明日の努力が、神の国の義に支えられていることを喜ぶたいものです。救いの言葉“一日で十分である”に祝福と平安を頂きましょう。

# 週報

2009年 7月 5日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)